

第九番

萬松山 慧日寺

Enichiji



慧日寺は、永和元年（1375）足利三代將軍の管領細川頼之と弟で養子の頼元により建立されました。開山は、特峯妙奇禪師であり、京都天龍寺の開祖夢窓疎石と兄弟弟子にあたります。県指定の文化財でもある仏殿は、檜皮葺きで、ほぼ完全な禅宗様式の建物となり県内では稀なものです。この他に、5棟の建物（本堂、庫裏、経蔵、鐘楼、裏門）は、国登録有形文化財に指定されています。

6月下旬より7月初旬にかけて、「姫ボタル」を楽しむことができます。

住 所 丹波市山南町太田127-1
拝 観 時 間 9:00～16:00
納経受付時間 9:00～16:00
ご朱印は手書き対応
(不在時は書置き対応)
入 山 料 大人300円（高校生以下無料）
電 話 0795-77-0354



第十番

愛宕山 常龍寺

Jyoryuji



常龍寺は養老年間（717～724）に、法道仙人が愛宕山中腹に開基したと伝わる古刹です。当時は七堂伽藍を有した寺でしたが、明智光秀の丹波攻めで堂宇はことごとく焼失してしまいました。しかし、公孫樹（いちよう）だけが焼け残り、今に雄姿を見せてくれています。江戸時代になって光覚法印が愛宕山麓に再興して現在に至っています。境内には、四国八十八ヶ所霊場お砂踏み、日本三体仏のうなぎ地蔵、俱利伽羅龍王像、ばけ封じ観音があります。

住 所 丹波市青垣町大名草481
拝 観 時 間 9:00～17:00
納経受付時間 9:00～17:00
ご朱印は手書き対応
(不在時は書置き対応)
入 山 料 大人300円・小人（中学生以下）無料
電 話 0795-87-5145



第十番

本光山 三寶寺

Sanboji



本光山三寶寺は名僧の太宗守順和尚により、室町時代の文明4年（1472）に開基されました。禅寺に相応しい山門・鐘楼・本堂前の紅葉など、境内は枯山水の庭園や杉苔とも調和して落ちついた雰囲気醸し出しています。本尊は約1,000年前、平安時代の作として鑑定された十一面観世音菩薩で、令和5年4月に丹波市の文化財として指定されました。

住 所 丹波市柏原町大新屋571
拝 観 時 間 9:00～16:00
納経受付時間 9:00～16:00
ご朱印は書き置き対応
入 山 料 300円
電 話 0795-72-0954



第十二番

照月山 桂谷寺

Keikokuji



寺の創建は明らかではありませんが、文禄2年（1593）幸祐上人によって中興され、文政3年（1820）宥巖法師が、神池寺山中の一坊を移して現在の所に建立しました。ご本尊は阿弥陀如来で脇侍は観音菩薩（蹲裾像）、勢至菩薩で珍しいものです。平成14年に本堂、庫裡を改装しています。その他、弁天堂、観音堂、赤山明神社、福祿寿（新丹波七福神）などがお祀りされています。境内には栴や九尺ふじ、しゃくなげ、桜等が植えられています。

住 所 丹波市春日町野上野1019
拝 観 時 間 9:00～16:30
納経受付時間 9:00～16:30
ご朱印は手書き対応
(不在時は書置き対応)
入 山 料 300円（高校生以下無料）
電 話 0795-74-0872



木漏れ日に揺れる青もみじ

自然と歴史が織りなす古刹を訪ねて

丹波 青もみじめぐり

木漏れ日の中できらめくもみじの新緑を愛でてみませんか？

丹波もみじめぐり12ヶ寺では紅葉のもみじだけでなく、魅力的な新緑のもみじも楽しんでいただくために春は「青もみじ特別ご朱印」（有料）をいただけます。

ぜひ古刹とともに新緑のもみじをお楽しみください。



インフォメーション

道の駅 丹波おばあちゃんの里 丹波市観光情報センター

兵庫県丹波市春日町七日市710
☎0795-70-3001 営業時間 9:00～17:00（定休：年中無休）

丹波市観光協会 かいはら観光案内所

兵庫県丹波市柏原町柏原3625
☎0795-73-0303 営業時間 10:00～16:00（定休：火曜日・年末年始）

丹波市観光協会 ひかみPA観光案内所

北近畿豊岡自動車道下り「ひかみPA」内
☎0795-82-9123 営業時間 10:00～16:00（定休：元旦）

十二ヶ寺

白毫寺

第十二番

桂谷寺

第九番

慧日寺

開催期間(通年)
4/20～
6/30

青もみじ御朱印の
授受期間

観光協会
ホームページ



丹波マップ



まごころ応援団



第一番

西天目瑞巖山 高源寺 Kogenji



鎌倉時代に遠谿祖雄禅師によって建立された臨済宗中峰派の本山です。境内には惣門・山門・仏殿・方丈・鐘楼・多宝塔などの伽藍があります。また、遠谿祖雄禅師が中国から持ち帰った「天目楓」をはじめとする約200本の楓が境内を鮮やかに染めます。特に惣門から山門にいたる参道には古木の楓が多く、紅葉のトンネルが続きます。

住 所	丹波市青垣町檢倉514
拝観時間	8:00～16:30(4月～10月) 8:30～16:30(11月～3月)閉門17:00
納経受付時間	9:00～16:30(4月～10月) 9:30～16:30(11月～3月) ご朱印は手書き対応 (不在時は書置き対応)
入 山 料	大人300円 小人(中学生以下) 100円(通年)
電 話	0795-87-5081



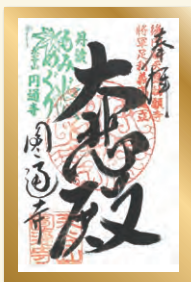
第二番

永谷山 円通寺 Entsuji



参道から境内の一段目、二段目、三段目と豊かな青もみじが続きます。また天然記念物の大杉・糸桜・楠の木と桜の木等の巨木・古木も点在し、夏は紫陽花や蓮のほか、鯉や鴨・亀等が目を楽しませてくれます。円通寺は、京都の金閣寺を建てた足利三代将軍義満がその15年前の1382年に創建しました。以後、関白近衛家、幕府管領細川家などに護られて発展を遂げ、明智光秀の丹波攻めでも「太平記」の勇将荻野朝忠の子孫の荻野喜右衛門が光秀を説得して難を逃れました。寺には光秀直筆の「禁制」「下馬札」が遺されています。

住 所	丹波市氷上町御油983
拝観時間	8:30～16:30
納経受付時間	8:30～16:30 ご朱印は書き置き対応
入 山 料	大人300円・小人(中学生以下) 無料
電 話	0795-82-9188(円通寺もみじの里振興会) ナビ0795-82-1992(円通寺)



第五番

弘浪山 高山寺 Kosanji



真言宗大覚寺派別格本山。天平宝字5年(761)に法道仙人により弘浪山頂に開かれました。その後、源頼朝の命を受けた重源聖人により復興されます。昭和33年に本堂、山門などを山頂から現在地に移築され今に至ります。江戸中期に建立された山門の仁王像、安産祈願所である安全堂、四国八十八カ所の石仏や安産大師などの仏様が皆様のお参りをお待ちしております。

住 所	丹波市氷上町常楽50-1
拝観時間	9:00～16:30
納経受付時間	9:00～16:30 ご朱印は手書き対応 (不在時は書置き対応)
入 山 料	300円(通年) 団体割引有 200円(10名以上)
電 話	0795-82-1261



第六番

五大山 白毫寺 Byakugoji



丹波の山並みを背に佇む天台宗の古刹・五大山白毫寺は705年に開基されました。心の字を型どる「心字池」には太鼓橋が架かっています。この橋の手前が私たちの俗世界。反対側は仏たちの悟りの世界を表し、橋の急勾配は、悟りへの道のりの厳しさを表現しています。当寺のモミジの多くは春の若葉から赤いのが特徴。そのほか、5月初旬の九尺ふじは巨大な紫のベールとなって人々を包み、心安らぐ空間となります。

住 所	丹波市市島町白毫寺709
拝観時間	9:00～17:00
納経受付時間	9:00～17:00 ご朱印は手書き対応 (不在時は書置き対応)
入 山 料	一般300円(高校生以下無料) 団体200円(20名以上) 但し、九尺ふじ開花期間中 一般500円、団体400円
電 話	0795-85-0259



第三番

不動山 岩瀧寺 Ganryuji



弘仁年間(809～823)嵯峨天皇、住吉明神の霊夢により、弘法大師をこの地に巡錫せしめ、坊舎・諸堂を建立。その後、明智軍の戦火で全山焼失したが柏原藩織田家、三木別所家の尽力に依り再興されました。境内から独鉦の滝、浅山不動尊へと続く渓谷沿いの参道には自然の四季が味わえ、いろいろな紅葉を楽しむことができます。

住 所	丹波市氷上町香良613-4
拝観時間	8:30～16:30
納経受付時間	8:30～16:30 ご朱印は手書き対応 (不在時は書置き対応)
入 山 料	志納金(紅葉期間中は入山料必要)
駐車料金	普通車200円 バス1,000円
電 話	0795-82-7675



第四番

十九山 達身寺 Tasshinji



達身寺には平安から鎌倉期の仏像を80躯余り(国重要文化財12躯・県文化財34躯・市文化財33躯と破片134片)を所蔵しております。また、当寺は西国四十九薬師霊場・丹波十五ヶ寺古刹霊場です。達身寺の裏山の「ノムラモミジ」は春でも赤いもみじが楽しめます。もみじで目を和ませ、仏像で心を清めてください。

住 所	丹波市氷上町清住259
拝観時間	9:00～16:00
納経受付時間	9:00～16:00 ご朱印は手書き (不在時は書置き対応)
入 山 料	お一人500円(中学生から) 小学生まで無料 団体割引400円(20名以上) 障害者手帳持参提示無料
電 話	0795-82-0762



第七番

岩屋山 石龕寺 Sekiganji



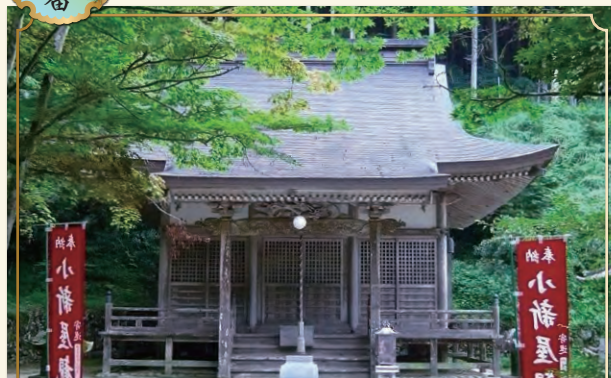
縁起書によりますと、用明天皇の丁未の年(587)聖徳太子の開基と伝えられています。太平記には、足利尊氏の嫡子義詮がこの地に身を寄せたことが記されており、当寺が足利氏とゆかりが深いことが伺えます。山門の金剛力士像(仁王像)は、仁治3年(1242)肥後法橋定慶の作で、国の重要文化財に指定されています。

住 所	丹波市山南町岩屋2
拝観時間	8:30～16:30
納経受付時間	8:30～16:30 ご朱印は書き置き対応
入 山 料	志納金
電 話	0795-77-0235



第八番

石金山 小新屋観音 Koniyakannon



永正7年(1510年)岩尾城主和田日向守齊頼が、千手観音が石船に乗り近くの石金山から麓に下り立つ霊夢により本堂を建立し、祈願所として厚く崇拝したと言われています。手足の病氣回復に霊驗尤もあらたかな観音様として、多くの方が参拝されます。和田日向守の霊夢に出た石船は本堂横に「いぼの神様」と共に安置されています。

住 所	丹波市山南町小新屋石金47-1
拝観時間	9:00～16:00
納経受付時間	9:00～16:00 ご朱印は書き置き対応
入 山 料	大人300円(高校生以下無料)
電 話	無し

